

## 2023.05.04. 木曜礼拝「偽物は本物を証明する」

### エゼキエル 8 章&聖餐式

#### JD ファラグ牧師

主よ、あなたは聖いお方です。この礼拝の時を感謝します。主よ、礼拝がもたらすものに感謝します。なんとこの祝福でしょうか。私たちに招き入れてください。主よ、私たちは耳を傾けます。あなたの御言葉を受け取れるこの時間に感謝します。受けとれるように祈ります。今夜、あなたの御言葉を受け取れるように、助けてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

アーメン。こんばんは。皆さん、今夜はいかがお過ごしですか？ 良いですか？ 祝福されてますか？ 良かったです。まだ聖餐セットを取りに来てない方は、今のうちに取りに来ててください。また、オンラインの皆さんも、参加下さり嬉しいです。私たちと共に聖餐式に与かる場合は、今の間に準備しておくといいでしょう。聖書の学びの締めくくりに、共に与かります。実は、非常に興味深いことになりそうです。

神だけがお出来になるのですが、最後まで行くと、とても面白いことになります。まさに聖餐式のお祝いと見事に結びついていて、とても楽しみです。今夜、ここにおいで下さり嬉しいです。来てよかったと思えることを信じています。私たちは聖書を書ごと、章ごと、節ごとに読み進めています。現在はエゼキエル書です。今夜は 1 章だけを取りあげます。8 章です。先週、6 章と 7 章を終えましたが、少し違った形で取り組んでみようと思います。その理由はまもなく理解していただけると思います。

神は今、エゼキエルに 4 つの幻を見せておられます。これらの幻は、8 章から 11 章に渡って描かれています。これらの幻は、エルサレムの神殿で行われた言いようのない忌み嫌われる行為についてのものです。基本的には、これらの幻の中で、現在も健在な偽りの異教の起源を説明することになります。

今夜は、たくさんの点と点が繋がるかもしれないと期待しています。聖霊の力を受けながら、最善を尽くしたいと思います。1 節ずつ見ていくことになりませんが、この章を読み進めていく上で、非常に重要だと思われることを 2 つほど指摘したいと思います。この章の締めくくりとして、私はある種の角を曲がりたいと思います。これが私が、偽物が本物を証明するものであるということが、どういうことなのか、なぜそうなのかということをお話したい理由です。

ちなみに 70 ドル札の偽札を見かけることがないのはこのためです。ここまで良いですか？ いいスタートが切れましたね？ では、なぜ 70 ドル札の偽札を見たことがないのでしょうか。本物の 70 ドル札なんて存在しないからです。しかし、100 ドル札は実在するので、多くの偽札が見られます。これも、もう一步踏み込んで言えばだからこそ、とても興味深いのですが、考えてみてください。偽のムハンマドや偽の仏陀の話を書くことはありません。偽キリストの話しか聞きません。なぜでしょう？

なぜなら、キリストは神だからです。神の御子であり、子なる神だからです。イエスは本物であられ、そのように、偽物が本物を立証します。それが、今夜はかなり劇的な形で見えていくことです。具体的には、章の終わりにこの頂点を迎えることになります。そうすることで、クリスマスやイースター特有の偽りの異教徒宗教が見えてきます。先週もこのことに触れましたが、私はこう思いました。

「いや、そんなこと話たくありません。」すると、先週、主は仰いました。「いえ、あなたはこのことを話すのです。」「分かりました、主よ、話します。ええ、でも、聖餐式の木曜日ですよ。」このような会話は、主が私にするのではなく、私が主とするものだというべきでしょう。神が最終決定権をお持ちです。

でも、私はこんな感じで、「でも聖餐式があって、急ぎたくありません。」「あなたは今夜話すことを望み、今夜そのことを話すのだと分かるでしょう。」

ですから、私たちは今夜このことをお話しします。それに、もう復活の日曜日は過ぎてしまいましたし、また、クリスマスまでかなり時間があります。なので、「5月にメリークリスマス」それでは、祈りませんか？ よろしければ、取り掛かる前にもともに祈りましょう。

天のお父さま、本当にありがとうございます。主よ、あなたの御言葉と、そして今夜私たちの前にあるこの章の御言葉に、私たちは感謝しきれないほどです。聖書にこのような章があるのは理由があり、それを見ていきます。主よ、あなたにしか出来ないご方法で、いつも忠実であられるように、私たちが集中できるように、あなたに完全に集中できるように助けてください。よくなりがちですが、心が彷徨うことがありませんように。今夜、あなたが用意されていることを聞かせたくない敵が、何かに気を引かせたり、忙しい生活の中でのストレスで、私たちの頭を混乱させないようにしたいです。これは、あああなたの御言葉を互いに聞き、交わり、礼拝する私たちのあなたとの時間です。私たちはこれをとても大切にしています。主よ、あなたがもっと大切にされていることを知っています。だから、私たちが一緒にいるこの時間、あなたの御言葉の中で恵みを与えてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。それでは、1節に入りましょう。

—エゼキエル 8:1—

第六年の第六の月の五日、…

これもまた、時間軸の一つです。これによって、時間の経過を確認できます。7章と8章の間には、もうすでに数ヶ月が経っています。

…私が自分の家に座っていて、…

エゼキエルはバビロンのケバル川のそばのテルアビブに家を持っていたようです。どうやら、神は彼に家を与えられ、こう書かれています。

…ユダの長老たちも私の前に座っていたとき、神である主の御手がそこで私の上を下った。

—エゼキエル 8:2—

私が見ると、火のように見える姿があった。その腰と見えるところから下の方が火であり、腰から上の方が琥珀のきらめきのように輝いて見えた。

この幻の栄光と威厳を表現するために、このような言葉が繰り返し使われていることに注目してください。今、神がエゼキエルに与えておられます。3節。

—エゼキエル 8:3—

すると、その方は手の形をしたものを伸ばし、私の髪の毛をつかまれた。…

私にはそれは出来ないでしょう。神はエゼキエルの髪を掴み、彼を引き上げられます。

…すると、霊が私を地と天の間に持ち上げ、神々しい幻のうちに私をエルサレムへと携え行き、ねたみを引き起こす「ねたみ」という像がある、北に面した内門の入り口に連れて行った。

さて、これはあまり深入りしない方がいいと思うのですが、神は嫉妬深い神であるとの区別があり、それを明確にすることが重要です。神は私たちに嫉妬されるものではありません。私たちのために嫉妬されるのです。その違いを明確にし、両者を区別する必要があります。つまり、彼は今、この幻を見ながら、霊的な領域でバビロンからエルサレムへと移動しています。そして、彼が最初に目にするのは、この像です。お許しいただきたいのですが、これは北門の扉の内庭にあったポルノ的な像です。

#### ーエゼキエル 8:4ー

なんと、そこには、私がかつて平地で見た幻と同じような、イスラエルの神の栄光があった。

この参照は 1 章に記録されています。さて、ここで指摘したいことがあります。とても重要なことになると思います。これは、今夜ここにいる、あるいはオンラインで見ている誰か複数の人のための言葉かもしれない。少しご忍耐くださり、お聞きください。今エゼキエルは、この時点で 20 代半ばくらいでしょう。1 章で話しましたが、20 歳の時、彼はすでにエルサレムの神殿で祭司として仕えるための準備が進められていました。そして、突然バビロンに捕らわれ、すべてが変わってしまいます。30 歳になると、神殿で祭司としての務めが始まるはずでした。議論のために言うておくと、彼はおそらく 25 歳くらいで、現時点ではとても若者です。彼はそのために、神殿での祭司の務めのために準備されていたのです。なぜそれが重要なのでしょうか？ なぜなら、1 章でお話ししましたが、神は彼を植え替えられ、エルサレムからバビロンに捕虜として連れ出されました。そして、今、8 章に入ったところで、神は理由があって、彼を霊の領域においてエルサレムに連れ戻しておられます。私たちはそれを見ようとしています。

さて、ここでエゼキエルは、自分がそこで祭司の奉仕と務めを果たしていたであろうまさにその神殿を目にしています。そして、彼はこれらの忌まわしい像、主の御目には忌まわしい、主の嫉妬を引き起こす像を目にしています。エゼキエルはこんな感じであったと知らなければなりません。

「わお...！ 神殿で祭司として仕えることになっていたが、今、神殿の中に何があるのか見てみよう。」  
では、5 節。

#### ーエゼキエル 8:5ー

その方は私に言われた。「人の子よ。さあ、目を上げて北の方を見よ。」私が目を上げて北の方を見ると、なんと、北の方の祭壇の門の入り口に「ねたみ」という像があった。

#### ーエゼキエル 8:6ー

この方は私に言われた。「人の子よ。あなたには彼らのしていることが見えるか。イスラエルの家は、わたしの聖所から遠く離れようとして、ここで大きな忌み嫌うべきことをしているではないか。あなたはなおもまた、大きな忌み嫌うべきことを見る。」

では、これが私が目指す所です。エゼキエルは、エルサレムでこんなことが起こると知り、自分を連れ出された神に、感謝しているのではないのでしょうか。「牧師さん、ポイントは何ですか？」これがポイントです。神はしばしば、私たちを不可解にも移動させられます。私たちはここで、蹴ったり、戦ったり、噛んだり、引っ掻いたり、疑問を持ち、

「神様、なぜですか？ 私はこの祭司の務めに興奮し、望んでいて、すべての準備が整っていたのに、あなたはよりによって捕らえられたバビロンに私を植えられ、そこで咲かせられるために、私を根っこごと引き抜かれました。どういうことですか？ 神さま、あなたは間違ったファイルを引き出されたようです。」

「いいえ、違います、エゼキエルよ。今に分かります。8 章にたどり着いた時、あなたは理解できるでしょう。」もちろん、それは 8 章以前の話ですが。私たちにはもちろん、エゼキエルが何が起こるかを知らずに、何が起こるかを知らることができるという利点があります。しかしこれは、、、こんな風に言うてみましょうか。神がなぜそうしておられるのか、その時はわからないことがあります。私たちには神のご方法が分からず、神の英知が分からず、神に疑問を抱きます。疑いさえもってしまいます。しかし、

ある時エゼキエルに、「ああ、今わかりました、主よ」という時が訪れます。「ああ、主よ、感謝します。」

今までに答えられなかった祈りを神に感謝したことがありますか？ 何のことかお分かりですよ？

なぜなら、神はここで…私たちがいる祈り方をした時、神はこう仰るようです。

「あなたはその祈りに応えて欲しいと思わないはずですよ。もしあなたがわたしが知っていることを知りさえすれば、その祈りさえも祈らないでしょう。わたしは初めから終わりを知っています。エゼキエルよ、あなたはわたしに信頼しなければなりません。あなたはエルサレムに残りたくないはずですよ。その理由を 8 章で見せましょう。わたしはあなたを霊の領域でそこに連れ戻します。そして、あなたが仕えたであろう神殿で、そこで何が起きているのかを見せます。」

エゼキエルは、「わかりました。大丈夫です。私は、ここテルアビブで、今いる場所に留まります。」アクセント付きで。こんな話し方ではありませんが。7 節。さらに酷くなります。ネタバレですが。

—エゼキエル 8:7—

それから、この方は私を庭の入り口に連れて行かれた。見ると、壁に一つの穴があった。

—エゼキエル 8:8—

この方は私に言われた。「人の子よ。さあ、壁に穴を開けて通り抜けよ。」私が壁に穴を開けて通り抜けると、一つの入り口があった。

—エゼキエル 8:9—

この方は私に言われた。「入って行き、彼らがここでしている悪い忌み嫌うべきことを見よ。」

—エゼキエル 8:10—

私が入って行って見ると、なんと、這うものや動物のあらゆる形、すなわち忌むべきものや、イスラエルの家のすべての偶像が、周りの壁一面に彫られていた。

神殿の壁に描かれていた像です。これは忌まわしいものでした。それらはとても生々しく、これらの像、偶像はとてもポルノ的でした。

—エゼキエル 8:11—

また、イスラエルの家の七十人の長老が、その前に立っていて、その中にはシャファンの子ヤアザンヤも立っていた。彼らはみなその手に香炉を持ち、香の濃い雲が立ち上っていた。

—エゼキエル 8:12—

この方は私に言われた。「人の子よ。あなたは、イスラエルの家の長老たちが、暗闇の中、それぞれ自分自身の偶像の部屋で行っていることを見たか。彼らは、『主は私たちを見ておられない。主はこの地を見捨てられた』と言っているのだ。」

—エゼキエル 8:13—

また私に言われた。「あなたはなおもまた、彼らが行っている大きな忌み嫌うべきことを見る。」

—エゼキエル 8:14—

それから、この方は私を主の宮の北の門の入り口へ連れて行かれた。するとそこには、女たちが”タンムズ”のために泣きながら座っていた。

これを覚えておいてください。また戻って来ます。

—エゼキエル 8:15—

この方は私に言われた。「見たか、人の子よ。あなたはなおもまた、これよりも大きな忌み嫌うべきこ

とを見る。』

「冗談でしょう？これよりも酷くなるのですか？」「そうです。もう一度、また、これらよりもさらに大きな忌まわしいものを見せます。」

—エゼキエル 8:16—

それから、この方は私を主の宮の内庭に連れて行かれた。すると、なんと、主の神殿の入り口、すなわち、玄関広間と祭壇との間に二十五人ばかりの人がいた。…（聞いてください）…彼らは主の神殿に背を向け、

顔を東の方に向けていた。東の方を向いて、太陽を拝んでいた。

もし私がエゼキエルなら、「神様、バビロンへの片道切符に本当に感謝します。本当にありがとうございます。これには愕然としました。」エゼキエルにとって、これは心が痛むものだったと知らなければなりません。

—エゼキエル 8:17—

この方は私に言われた。「見たか、人の子よ。ユダの家にとって、彼らがここでしているような忌み嫌うべきことをするのは、些細なことだろうか。彼らはこの地を暴虐で満たし、わたしの怒りをいっそう駆り立てている。見よ、彼らはぶどうのつるを自分たちの鼻にさしているではないか。

それは、ちょうど私たちの時代の「Just in your face/挑戦的な」に近い慣用句です。

—エゼキエル 8:18—

だから、わたしも激しい憤りをもって応じる。わたしはあわれみをかけない。わたしは彼らを惜しまない。彼らがわたしの耳に大声で叫んでも、わたしは彼らの言うことを聞かない。」

これでこの章は終わりです。決して聖書の学びが終わったわけではありません。しかし、このような終わりです。こんな感じです。さて、これが私が今夜、主が私にさせようとされたことをしようと思った理由です。残りの時間で、聖餐式を行う前に、この章の重要性を説き明かしたいと思います。また、聖霊の助けによって、点と点がつながり、多くのことが理解できるようになることを期待しています。この章は、なぜ聖書にこのような章があるのかを理解する上で重要な意味を持つものです。というのも、正直なところ、私たちは一読して、「そうか、そうなの？」と思い、また、自分に正直になれば、私たちは皆、こうなりがちです。私もその傾向が強いです。8章まで読んで、9章まで読んで、個人的には何の適用もないような気がします。これ以上ないほど真実です。この章から得られるものがあるとするれば、それは、神は私たちを守り、方向を変えてくださるということであり、神がそうしてくださらなかったら、私たちはどうなっていたらどうかということを知るためです。もう一度言いますが、もしかしたら誰かのため、あるいはもっと多くの人のためかもしれないと思います。神はあなたの人生でこのようなことをされたかもしれません。それは不可解で、理解不能です。全く理に適っていません。しかし、だからこそ、信仰と呼ばれるのでしょう。

望んだことの実体、まだ見ていないことの証拠です。（ヘブル 11:1 参照）

主に信頼してください。神はご自分が何をしているのか知っておられ、あなたは神が何をしておられるのかわかりません。神はご自分が何をしているのか知っておられ、あなたを何かから守っておられます。神は、最終的に、そして潜在的にあなたを破壊するようなものからあなたを守っておられます。あなたを打ちのめし、想像以上に傷つけるものから。だから、主に信頼してください。神はご存じです。神はあなたを本当に愛しておられます。神はあなたの心がある場所からあなたを移すことが必要だとお考え

かもしれません。それは全く理に適っていません。主のなさることを信頼するのです。主は、あなたの人生に8章を用意しておられるかもしれません。あなたまだ8章にたどり着いていません。まだ1章から抜け出せないでいます。

「何ですか？ 主よ、何をしておられるのですか？」「待っていなさい。ただ待っていなさい。あなたにはわからないでしょう。あなたの考えを吹き飛ばします。今に見ていなさい。ただ忍耐していなさい。8章は来るからです。わたしはあなたの目を開き、わたしがなぜこのような方法をとったのか、いつそうしたのかを見せてあげます。あなたはわたしに感謝することになります。今は、理解できませんが、それをわたしに感謝することになります。」

さて、本題に入りましょう。洪水後の創世記で、ノアの孫の話から始まります。

彼の名は、ニムロデ。これは創世記10章6節から10節です。ニムロデは、バベルの塔を建てた男です。この地はシナール平原にあり、後にバビロンと呼ばれるようになります。現在のイラクにある首都バグダッドから50マイルほど離れたところです。この「バベル」という言葉は、そこで言語が混乱したため、そこから、私たちがよく使う現代の言葉が生まれました。「What are you babbling about?/何を言っているんだ？」という文脈で使われることもあります。そこに由来しています。これがバビロンの「バベルの塔」でした。ニムロデは非常に邪悪です。神に対して大きく反抗したことは、歴史的な記録や、もちろん聖書の記録からも証明されています。ニムロデは政治的な指導者であるだけでなく、悪魔的な異教崇拝の中心的な祭司であったことが記されています。伝説によると、ニムロデが死に、その妻であるセミラミス女王が隠し子を産みます。彼女はこの子にタンムズと名付けます。タンムズという名が出てくるのは、全聖書の中でこのエゼキエル書8章だけです。彼女はこの息子を産み、タンムズと名付け、ニムロデの生まれ変わりであり、無原罪の子であると主張します。この先が分かりますね？ そして、子も母親も崇拝されました。セミラミスは、後に豊穰の月の女神として知られるようになりました。これは母と子の、おそらくよく知られている、または間違いなく知られている絵です。タンムズの無原罪の受胎とその後の復活のために、母子で崇拝されました。狩人であったタンムズはイノシシに殺されてしまい、闇の世界に入りましたが、しかし、地中からの春草のように3日目に”よみがえり”ました。まさか。どれほど独創的でしょうか？ 自分でネタを考えてください。タンムズの奇跡的な受胎とその後の復活を祝うために、タンムズを崇拝する祭りが始まりました。そして、このタンムズの祭りに先立ち、異教徒は40日間断食を行いました。今、これを言うのにちょうどいい機会かもしれません。これはいくつかのギアを詰まらせ、ハードドライブを壊すものです。あなたの年齢に応じて、どんな比喻でも使ってください。でも、そこから生まれたのが、40日間の断食です。聖書的ではありません。それは嘆き、涙の時でした。これは、こんにち私たちが知っているレント（四旬節）と多くの類似点の一つです。全くもって聖書的ではありません。これは、偶像崇拝的な忌まわしい母子崇拝と並ぶものでした。悲しいことに、それはローマ・カトリックという偽の宗教によって取り入れられ、実践されています。ええ、私はこう言いました。カトリックは偽の宗教です。「牧師さん、かなり強気ですね。」ええ、その必要があります。なぜなら、ローマ・カトリックでは、イエスの母であるマリアを罪のない、共に贖罪する存在としているからです。その意味がわかりますか？ だから彼らはマリアに祈りを捧げるのです。マリアは罪を赦すことができると。どこに書いてありますか？どこに書いているのか見せてください。書かれていないので、見つかりません。非常に興味深いのは、私は、若い信者だった初期に、このことに関する素晴らしい教えを聞いたことを忘れられません。聖書に記されているマリアの最後の言葉は、皮肉

にもこの結婚式でのものだったことをご存知でしょうか？ イエスが水をぶどう酒に変える奇跡を起こされた箇所です。(ヨハネ2章 参照)

マリアは、聖書の中でマリアが語ったと記録されている最後の言葉を言います。

「これは私の息子です。あの方の言われることをしてください。」

カトリックの聖書のどこにそんな一節があるんですか？そして、これがもう一つのポイントです。この話を持ち出すべきではなかったのに、やってしまいました。そんなことわざがあります。

「歯磨き粉をチューブに戻すことはできない」ここにきて、歯磨き粉だらけです。自分の罪を人には告白しません。マリアは救い主を必要とする罪びとでした。ところで、マリアとヨセフには、イエスの後に、子どもがいました。カトリックはそれを否定します。彼らはそれを回避するために、聖句をねじ曲げます。ローマ・カトリックは...さらに踏み込みますが、私はこれを愛をもって言います。主は私の心をご存じです。カトリックは忌むべきものです。悪魔的であり、異教です。ローマ法王が頭につけているものを見たことがありますか？ 気の弱い方にはお勧めしません。エゼキエルのように、あなたは呆然とすることでしょう。愕然とすることでしょう。興味深いことに、ローマ法王は、キリストの代理人です。確実な、反キリスト。あの反キリストとは言っていません。中には、彼が偽預言者である可能性を信じている人もいます。こだわって調べようとは思いません。反キリストとは、キリストに反するという意味だけではありません。実際にはもっと、「キリストの代わり」という意味合いが強いと言えるかもしれません。それは誰でしょう？ ローマ法王は、キリストの代わり、反キリストです。私は皆さんの考えが分かります。皆さんの頭の中を読めますから。(笑) 実は今、何か入ってきているんです。ちょっとお待ちください。ちょっとまずいですね。皆さんの考えていることは分かります。カトリック教徒でありながら、新しく生まれ変わることができるのでしょうか？ もちろんです。もちろんです。実際、カトリック教会に残って伝道している生まれ変わったクリスチャンもいます。ですから、「はい」その質問の答えです。

では、カトリックをキリスト教と呼べるのでしょうか？ 絶対にあり得ません。キリスト教ではありません。カトリックのイエスは、聖書のイエスではありません。彼らはイエスを貶め、マリアを崇めてきました。あなたがここに見ているような母子像も崇拝しています。真っ先に連想するのは？ 母マリアと赤ん坊のイエスではありませんか？ そうではありません。これはセミラミスとタンムズの母子崇拝の異教の像です。お聞きください。興味があれば、自分で調べてみてください。あなたが見つけるものは、ただただ唾然とすることでしょう。これらの異教の宗教には母子像があります。ところで、最後にもう一つ。それから次に進みます。聖心を持つイエスを描いたカトリックの像をご存じでしょうか。お許しください、それは不気味です。不気味です。髪の毛の長い人の姿。すみませんが、イエスはそのような姿ではありません。イエスは...、申し訳ありませんが、イエスはもっと私に似ています。そう、あなたはそのイメージを持たずに一生を終えることができたのに。これはショックだと分かっていますが、イエスはユダヤ人でした。イエスは中東出身でした。青い目で、アメリカ化された、カトリック風のイエス。イエスはそんな姿ではありませんでした。申し訳ないのですが、このような弱々しいイエスのイメージ。イエスは男でした。神の人でした。ピラトの前に連れてこられたとき、イエスは見違えるほど鞭打たれた後でした。人間とは思えないくらいに。ピラトは何と言いましたか？

「見よ、この男を。今までこんなものは見たことがない。こんな男、見たことがない。」これらは弱々しいイエスで...これには血圧が上がります。では、ここで戻してみましよう。これは異教の像であり、

異教の崇拜です。そして、この崇拜は、父ニムロデ、母セミラミス、子タンムズ崇拜へと移り変わっていきました。ほとんど、汚れた三位一体と言えるでしょう。前述の「バベルの塔」に入ります。実はジグラットと呼ばれるピラミッドであったと考えられています。このジグラット構造は、ピラミッドでありながら、実は塔であり、あるいは太陽、月、星を崇拜する神殿であり、こんにち私たちが占星術のオカルト的な行為として知っているものです。それを知っておいてください。天文学と占星術の区別をもう一度つけてください。神は天と地と海とそこの中にあるすべてのものの神であられ、この星々の宇宙の創造主です。神が星々を創られました。神はそれらを宇宙空間に放たれ、名前をつけられました。しかも、すべての名前を覚えておられます。私がほんの少しでも名前を覚えていればいいのですが。その星の数は、海辺の砂のように多いのです。全世界の中でカイルアビーチの砂だけでも考えてみてください。これは、実はクリスチャンの調査ではなく、世間の調査です。彼らは、この空や宇宙の星々が、海辺の砂のようにたくさんあることを発見しました。聖書を読んでほしいと願うばかりです。研究費を大幅に削減できます。ここ（聖書）にあります。神が語られ、それで決まりです。なぜ研究しなきゃいけないのでしょうか？ ですから、これらは実際にピラミッドであり、崇拜するための神殿でした。写真は、その中でも最もよく知られている、エジプトのギザにあるピラミッドです。実際にこのピラミッドに行き、入ったことがあります。ギザに住んでいる叔母がいるんです。もう何年も前のことですが、訪れた際に妻と二人で宿泊しました。これらは紹介されているような墓ではないと、私は証言することができます。これらは礼拝のための神殿です。異教の礼拝。こんにち、このピラミッドの名残を世界中で見つけることができます。これは実際にバビロン（現代のイラク）にあったもので、カルデアの大地と呼ばれる大地のジグラットです。カルデアはバビロンの言語と文化、名前であり、カルデア人です。これらのジグラットや神殿は、神や女神を崇拜するためのもので、その代表が母セミラミスです。母セミラミスは、実は「母なる自然」「母なる大地」という別の名前でも知られていました。「母なる女神」とも呼ばれました。これはどうでしょう？「天の女王」ふむ...聞き覚えがありますね。「バアルの妻」バアルが誰かご存じですね？ 別名は、言いますよ？

「アシュタロテ」性の女神、別名「イシュタル」別名「イースター」大丈夫ですか？ では、もっと悪くなります。今だから言いますが、完全公開です。彼女は性の女神でした。豊穡の女神、泉の女神、愛の女神。世界中の古代文化におけるこの崇拜は、またしてもお許しください、非常に性的に倒錯した性質を持っていました。先週も触れました。高い場所に、これを建てるのです。その話はしませんが、ただ、あらゆる面で非常に性的に倒錯しており、忌み嫌われるものであり、忌まわしい方法です。つまり、崇拜は同じでも、名前は同じではありませんでした。聖書のフェニキア語で、タンムズとアシュタロテ。ギリシャ神話ではエロスとアフロディテ。エロスというのは、ギリシャ語の Eros で、英語の erotic の語源になっているので、聞き覚えがあるはずです。erotic とは性的なことです。アフロディテは性の女神です。エジプト学、、あ、あ、エジプト学を知りさえすれば、ホルスの眼とアイリス。これはちなみに、アメリカでの発音です。繰り返しになりますが、とにかく調べてみてください。決して私の言葉を鵜呑みにしないでください。ベリヤ人になって、ご自分で聖書を調べ、今夜私が教えていることが真実かどうか確かめてください。エジプトでは、ホルスとアイリス。ローマの神々は...バレンタインデーも台無しにしてしまうかもしれませんね。今してしまいましたね？ だから、あと何年も大丈夫です。キューピッドとヴィーナスこれらは異教の神と女神でした。さて、イースターバニーはこうして誕生しました。ご辛抱ください。ウサギは繁殖力が強く、性欲も強い。そうですね？ ウサギは豊穡の性的な象徴とし



てよく知られています。すぐに繁殖することから、多くの文化圏で豊穡の象徴とされてきました。これが、我が家でウサギを飼うことがない理由です。伝統的なキリスト教芸術では、ウサギは欲望を表しています。だからこそ、プレイボーイ・バニーは、この性的崇拜の象徴なのです。それが根本的な起源です。イースターエッグはどうでしょうか？ とにかく...古代バビロニアでは神聖なシンボルでした。彼らは、天からユーフラテス川に落ちてきたとされる不思議な大きさの卵の言い伝えを信じていました。イラク、当時のバビロンには、チグリスとユーフラテスがありましたね。これが彼らが信じていたことで、この卵から、アシュタロテ、別名イースター、別名セミラミスなどが生まれ、イースターの女神を象徴するようになりました。次に卵に色をつけるときは、それを考えてください。神秘の卵という考え方は、バビロンから世界の一部に広まりました。実際に北欧や中国、日本で、神聖な祭りのために卵に色をつけていました。そこから来ているんです。セミラミスが豊穡の女神であったように、卵は豊穡の象徴でもあったのです。それは簡単な歴史に過ぎず、もっと深い関わりがあるのですが、少なくとも、現在のイースターのような異教の祭典の起源を歴史的に説明するものです。ちなみに、あなたの牧師がイースターと呼ぶことはないのはこのためです。これに関してすぐに説明しますが、このため、この言葉は絶対に使いません。それは「復活の日曜日」です。復活の日曜日です。

さて、西暦 313 年に話を進めましょう。そこで、現代のトルコにある首都コンスタンティノーブルが命名された、妥協の産物であるコンスタンティヌスが登場します。さて、最初の 4 世紀はキリスト教徒であることが違法だったことを理解してください。コンスタンティヌスが登場し、異教の偽宗教をキリスト教礼拝に統一するまで。その後、12 月 25 日にサトゥルナリアと呼ばれる異教の礼拝と、12 月 25 日にクリスマスをお祝いするようになりました。それが、クリスマスの由来です。イエスが 12 月 25 日に生まれたわけではないことを、知っておいてください。ご存じですよ？ もし私があなたのクリスマスをお台無しにしたのなら、私のせいではありません。エゼキエルのせいです。12 月 25 日、クリスチャンはキリストの誕生を祝い、異教徒はタンムズの復活を祝います。これに注目下さい。逆なのです。

EVIL/悪と、LIVE/生きるは つづりが逆です。イシュタル/イースターは、異教徒がタンムズの無原罪の誕生をお祝いする時、クリスチャンは、イエス・キリストの復活をお祝います。逆です。これはコンスタンティヌスのおかげです。ところで、補足的に SDA (セブンスデー・アドベンチスト) の方に言わせてください。コンスタンティヌスは、彼らが主張するように、礼拝の日をユダヤの安息日から日曜日に変更したわけではありません。それは、実は「使徒の働き」に書かれていたことです。彼らは週の初めの日に集まり、そこで礼拝をしました。(使徒の働き 20:7 参照)

それが復活の日でした。その話もしちゃいけないんだろうけど、まあいいか。これがすべてどういうものか分かりますね。では、これを聞いてください。これは、すごいです。ただただ、すごい。ですからこの異教の祭りでは、12 月 25 日にタンムズをお祝い、崇拝しますが、ユールログ (大きなまき) を置きます。ユールログが何かご存じですか？ カルデア語で少年の子を意味する言葉です。ユール。火にかけ燃やします。そして、一度燃やした木がユールログの代わりになり、その木を銀や金で飾ったのです。なんだか今、クリスマスソングが聞こえてきそうですね。おそらく、その通りだからです。しかし、この木は、地から上がってくる復活をお祝うためのものでした。タンムズの復活を。エレミヤ書 10 章 3 節と 4 節にご注目ください。私たちはもちろん、エレミヤ書を読み終えましたが、10 章では、それについてほんの少しお話ししました。3 節と 4 節で、エレミヤが書いていることに耳を傾けてください。

—エレミヤ 10:3—

国々の民の慣わしは空しいからだ。それは、林から切り出された木、木工が、なたで作った物にすぎない。

ーエレミヤ 10:4ー

それは銀と金で飾られ、釘や槌で、ぐらつかによろ打ち付けられる。

この木のことで、エレミヤが言っているこの木のことで、クリスマスツリーとして知られるようになりました。

最後に一つ。それは、エゼキエルが神殿に背を向けて太陽崇拝をしているところを見せられた 16 節と関係があります。ここで、少し想像してほしいのですが、神から与えられた想像力を働かせてください。この様子を思い浮かべてください。イスラム教徒がこんにち、まさに神殿の山で行っていることと不気味なほど似ているからです。彼らは背中を、背中を岩のドームに向け、ひれ伏します。その象徴には踏み込みませんが、ただただ忌まわしいことです。それが彼らがしていることです。神はエゼキエルに、彼らがしていたことの幻を見せられ、エゼキエルはこの男たちを見ます。背中を神殿に向け、ひれ伏しています。彼らは何をしているのでしょうか？ 彼らは東を向いています。何のためにそんなことをするのか？ 彼らは皆、東から昇る朝日を拝んでいます。それがサンライズ/日の出礼拝につながったのはご存知でしょうか。申し訳ありませんが、私たちは...今夜は申し訳ないと何度も言いましたが、本当に申し訳ないからです。本当に申し訳ないです。でも、ちょっとだけ、どうか許してください。今で 20 年になりますが、私は 2004 年に聖書の学びを始めました。最初の正式な礼拝は 2005 年でした。そして、2023 年を迎えました。神が私の証人であられますが、毎年、私はこれに対処しなければなりません。

「牧師さん、日の出礼拝はやるのですか？」いいえ。「どうして？他の教会はやってますよ。」それはそれでいいです。すみません、意地悪な言い方になってしましますが、じゃあ、そこに行けばいいじゃないですか。私たちはやりません。これが理由です。

「ちょっとまって、牧師さん。他の仲間の牧師さんたちは、太陽を拝んでいるとでも言うのですか？」全く違います。そんなことは全く言っていません。日の出礼拝をしたい、そこまで早起きしたいというのであれば、それはそれでいいのです。復活の日曜日の正午までに、皆へトへトになってますよ。しかし、このように太陽を崇拝することに由来する日の出礼拝は、これまでも、これからも行いません。勿論、もう一度、説明させてください。これを行っている教会は、太陽/sun を礼拝しているのではなく、御子/son を礼拝しているのなら、問題ありません。さて、ここで疑問が出てきます。

「分かりました。では、なぜ 12 月 25 日のクリスマスや、過ぎ越しの祭りの時に復活を祝うのでしょうか？」聞いてくれて嬉しいです。聞きましたよね？

では、お答えしましょう。まずはクリスマス、特にツリーに関連することから始めましょう。

ツリー/木は十字架を表します。「木にかけられたものはみな、のろわれている」(ガラテヤ 3:13 参照) ライトは、世の光であるイエスを表します。上部の星は、賢者であるマギが東方から導かれた星を表しています。しかし、これはおそらくもっと重要なことで、最高の表れです。ツリーの下に贈り物は、イエスとその木の十字架にかけられたときに買い取られた、永遠の命の贈り物を表しています。それがツリーが表していることです。

では、復活の日曜日について話しましょう。クリスマスと同じように...、一緒に考えてくださいね。

1 年のうち 2 日間、全世界の人々が救い主であるイエス・キリストを思い起こす日です。では、質問には質問で答えることにします。これが質問です。イエスが私たちのために死んでくださったことを思い

起こす日に、なぜ私たちは参加し、祝おうとしないのでしょうか？ なぜ、それをしたくないのでしょうか？「お～、それは異教の...！」分かっていますが、でも、1年のうち2日間、特にクリスマスは盛り上がります。それが大好きです。神は本当に素晴らしいユーモアがあられます。それは支持を集めて始まりましたが、今ではほとんど時代遅れにさえなっている、

「X'mas」う～、、、Xmas. いや、そうでもありません。ギリシャ語でXはキリストス（キリスト）。残念。逃げられませんよ。やはりキリストです。好きなようにそこにXを入れてください。ギリシャ語なら問題ありません。「キリスト」という意味です。

しかし、12月25日は1年に1度、救い主を思い起こさせる日です。そして、復活の日曜日は、1年に1度、イエス・キリストが死者の中から復活したことを、思い起こす日です。これこそが偽物の正体であり、それがまた一周回って、本物を証明することになるのは、興味深いことではないでしょうか。

これはかなり凝ってますね。無原罪受胎の男の子が死に、3日後にその子を蘇らせるということをおぼろげに思いつくとは。釈迦やムハンマドにも同じようなことを思いついたらどうですか？ それを考えると葛藤します。空欄を埋めてください。他にも偽の神はいるのでは？ アッラーは偽の神、ムハンマドは偽預言者です。イスラムは偽の宗教です。ただ、気になるのは、なぜ、その偽物はないのか？

なぜ、偽物がすべてこれなのか？ なぜなら、本物だからです。これが本物だからです。ところで、締めくくりますので、共に聖餐を与かりましょう。ここで、主だけがお出来になるように、ちょうど美しく聖餐式のお祝いに結びつきます。聖餐式のお祝いとは何でしょう？ イエスは何と仰いましたか？

「何度でも、わたしのことを覚え、これを行いなさい。」聖餐式のお祝いとは何でしょう？ 過越しです。過越しとは何でしょう？ それは、エジプトでの十番目の災いによる出エジプトからの預言で、子羊の血が十字架の形で家の扉に塗られ、死の御使いがその家を過ぎ越し、子羊の血によって、救われたというものです。それが私たちがいただく杯です。私はただ思い起こすために、これを行って欲しいと思います。私は救い主の誕生を思い起こしてクリスマスを祝います。私は復活を祝います。なぜならそれは、世の救い主の復活を思い起こすためです。イエスは仰いました。

「わたしを覚えて、これを行いなさい。」(ルカ 22:19 参照)

お祝いであり、記念です。それが今夜、私たちが行うことです。

イエス・キリストが十字架で死に、葬られ、三日目によみがえったことを覚えながら、行うのです。どうですか？そうです！ つまり、携挙の後にはクリスマスを手に入れることができますが、それまではできません。復活の日曜日と同じです。好きなだけやってみてください。私たちは、イエスがなさったことを思い起こしながら、それを祝います。ルカの福音書 22 章 14 節から。ルカが聖霊によって書いています。

—ルカ 22:14—

その時刻が来て、イエスは席に着かれ、(12 人の) 使徒たちも一緒に座った。

—ルカ 22:15—

イエスは彼らに言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたと一緒にこの過越の食事をすることを、切に願っていました。

—ルカ 22:16—

あなたがたに言います。過越が神の国において成就するまで、わたしが過越の食事をすることは、決してありません。

—ルカ 22:17—

そしてイエスは杯を取り、感謝の祈りをささげてから言われた。「これを取り、互いの間で分けて飲みなさい。

—ルカ 22:18—

あなたがたに言います。今から神の国が来る時まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは、決してありません。」

—ルカ 22:19—

それからパンを取り、感謝の祈りをささげた後これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられる、わたしのからだです。…

ここです。

…わたしを覚えて、これを行いなさい。

ここに居られる方は、パッケージの上部を剥がし、パンを手にとって、少しお待ちください。私たちの祝いには多くの象徴があり、それらが何を表しているのか、聖餐式の要素もそうですが、私たちが手にするこれは、砕かれたイエス・キリストの体の象徴です。過越の預言の成就としてイエスが不適格となる骨ではありません。子羊は骨を折られることなく、傷やシミ、シワのないものでなければなりません。皮膚が裂かれました。7か所からイエスの血が流されました。7は完全数です。イエスの体は砕かれ、血が流されました。これはその象徴です。イエスが私たちのために死んでくださったことを、私たちに思い出させ、思い起こさせるための象徴なのです。イエスは買い取られ、私たちのために全額支払ってくださいました。イエスが支払われた永遠の命という贈り物を、私たちに差し出してくださいました。私たちではなく、イエスが支払ってくださいました。その代償は何だったのか？

すべてです。受け取るために、このような贈り物を与えてくださいます。それは、イエス・キリストによる永遠のいのちの贈り物です。それが贈り物です。それがこれを象徴するものです。共にいただきましょう。

主よ、感謝します。あなたに感謝することは不可能なので、栄光の側で、十分に行うことになるでしょう。主よ、日曜の朝に第一ヨハネで見るように、私たちの代わりに、私たちの罪のために、一度ですべての代価を支払うために、あなたの体が砕かれたことを感謝します。非常に力強いです。次に今からいただく象徴である血にも力があります。

主よ、私たちのためにあなたの体が砕かれ、血を流されたことに感謝します。

—ルカ 22:20—

**食事の後、(イエスは) 杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による、新しい契約です。」**

残りのパッケージを剥がし、杯を手に取り、少しお待ちください。聖書は、血を流すことなしに罪の赦しはないことを明確に示しています。イエスがこう言われる時、、、、繰り返しますが、これは象徴です。もう一つだけ、カトリックのことを言ってもいいでしょうか？ すみません、これはあなたの宿命です。彼らは、全質変化を教えています。大げさな言葉ですね。かなり知的な印象を与えますよね？ それは何でしょう？ それは神秘的なことで、カトリックの人々は、聖餐式を与える時、彼らは、パンが文字通り変質してキリストの体につながり、飲む杯が文字通りキリストの血になると信じています。

そうですか。興味深いのは、、、、これは適切かもしれません。カトリック教会では聖餐式を拒否されるこ

ともありますよね？ ふさわしいと判断されなければなりません。これは超自然的、神秘的な、非聖書的なものだからです。彼らが行う幼児洗礼や子どもの初めての聖餐式など、何の意味もないことです。何の意味もありません。これがすべてを意味します。これは、先ほどのパンと同様に、イエス・キリストの血の象徴に過ぎず、私たちのために砕かれたイエス・キリストの体の象徴に過ぎないのです。なぜ私はそのような指摘をするのか。考えてみてください。人が聖餐式に参加できない言うことは、イエスを思い起こすことをしてはいけないと言ったということです。それがまさにカトリックがやっていることなのではないでしょうか？ 彼らはあなたをイエスから遠ざけます。何の時代でしたっけ... 暗黒時代です。カトリックはラテン語の聖書を説教壇に鎖で繋ぎ、人々がそれを読むことは禁じられていました。ご存じでしたか？ 彼らは御言葉から遠ざけます。「ダメです。父なる神父じゃないとダメ。」ア～ア～ア～ 頼みますよ。ただイエスを私にください。その辺りは良く分かりませんが、それは、悪魔的です。悪魔的です。なぜ、そんなことを言い出したのかわかりませんが、ネタバレしたくなかったのですが、イエスさま、あなたの血が私の代わりに流されたことに感謝します。私のすべての罪から私を洗い、すべての私の不義から私を清めて下さったことに感謝します。イエスの血による新しい契約です。共にいただきましょう。イエスさま、感謝します。終わりましたらお立ちください。カポノ、上がって来て下さい。

主イエスさま、イエスさま、イエスさま、ただ、あなただけです、イエスさま。主よ、あなたのようなお方は他にいません。シンプルであることに感謝します。イエス様、私たちはあなたに自由に近づくことができることを感謝します。私たちは、あなたのもとに行くために、どんなものも、どんな人も通す必要はありません。その幕が裂かれ、私たちがあなたの御座に、聖なる聖域に近づくことができることを感謝します。

主よ、この聖餐式のお祝いに感謝します。主よ、私たちが今晚したことは、あなたを覚えてしたことです。今夜この場を離れ、それぞれの道を歩むにあたり、聖霊の力強い臨在があることを祈ります。聖霊の小さな声も、あなたがどれほど私たちを愛しているか、どれほど私たちを赦されているか、あなたからの愛と優しさが私たちの心に語りかけてきますように。ルカの福音書にあるように、今夜ここで私たちが行ったことが、あなたの御国で究極の成就を見るその日を、あなたはどれほど待ち望んでおられたのでしょうか。主よ、私たちも待ちきれません。これは、私たちの理解力では想像もつかないほど高いものです。今夜ここで行ったことをあなたと共にいき、あなたと共にいただくのです。お～なんという栄光ある日となるでしょう。主よ、少なくとも今は、私たちを再調整し、正しい方向へ導いてくださることを感謝します。私たちはただあなたのもとに戻ります。イエスさま、ありがとうございます。私たちはあなたを本当に愛しています。イエスさま、あなたにすべての栄光を捧げます。あなたはふさわしく、イエスさま、あなたの御名にすべての栄光をささげます。イエスさま、感謝します。イエスの御名によって、アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7